日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会の概要

開催日：令和6年9月30日（月）

日本酒の販売状況

- 日本酒の需要は減少傾向にあるものの、酒造好適米を多く使用する特定名称酒の需要は増加しており、原料米の使用量は減少していない。円安の影響もあり、訪日外国人に対する日本酒の販売は好調。（需要者団体等）
- 酒は嗜好品のため、経済動向に大きく左右され、価格転嫁をすると極端に消費が落ちてしまう。（需要者団体等）

令和5・6年産日本酒原料米の状況

- 令和5年産の酒造好適米の需要量が生産量を下回っているという調査結果は実態と少し乖離しているのではないか。（実需者団体等、生産者団体等）
- 令和5年産の集荷数量は、全て酒造メーカーと結び付いている状況。令和6年産の集荷数量は前年比で微増の見込みであり、概ね結び付けも完了している。（生産者団体等）
- 酒造好適米については、酒造組合と密接な連携をとって希望数量に応じた計画生産を行っている。（生産者団体等）
- 令和6年産の酒造好適米の価格が上昇しており、中小零細の酒蔵では、資金繰りが厳しい状況。（需要者団体等）
- 令和6年産の酒造好適米の生育状況について（生産者団体等）
 - ・ 秋田県では、平年と比べるとやや良という状況であっても、作柄とは別に高温障害により消化性や酒化率が低下していることから、その対策としてケイ酸カリの土づくり肥料を導入している。
 - ・ 新潟県では、直近の1等比率は85%と平年並みまで回復。
 - ・ 福井県では、現在のところ1等以上の比率は90%であるが、カメムシの被害が若干見受けられる。品質は昼夜の気温差があったため、比較的良い状況。
 - ・ 兵庫県産山田錦の作柄は現場を見る限り、ほぼ平年並みの状況であるが、高温障害による乳白粒の発生など、品質への影響が心配。
 - ・ 広島県では、現在のところ平年並みの収量が期待できる。高温障害やカメムシ被害の影響も小さい状況。

令和7年産酒造好適米の生産に向けた取組

- 生産者の離農が進むおそれがあり、酒蔵自らが農地の維持や生産量の確保について、真剣に考え検討していく必要。（需要者団体等）
- 酒造メーカーから増産の要望はあるが、現実的には一度作付けを減らした産地は、需

要が回復しても生産を元に戻せない状況。（生産者団体等）

- 産地としては、酒造好適米については、原材料用途という性質から、従来、安定的な供給と価格形成に取り組んでいる。販売価格の乱高下は避けつつ、安定価格・安定供給の側面から酒米生産基盤の維持を念頭に、生産資材費の高止まりなどを踏まえた再生産が実現できる販売価格の在り方について、実需者側と協議していきたい。（生産者団体等）
- 主食用米と連動して、令和7年産の酒造好適米や加工用米の価格が上昇することを危惧。令和6年産では、価格が酒造好適米より主食用米の方が高い事例もあり、生産者に酒造好適米を引き続き生産してもらえるのか、実需者側も原料米の使用量を減らしてしまうのではないかと懸念がある。将来にわたり「安定的な価格」での「安定的な供給」が確保されるよう、国には特段の配慮をお願いしたい。（需要者団体等）
- 酒造好適米の安定的な取引を図るためには、契約栽培や複数年契約が効果的と考えている。例えば、数量の契約に加え、毎年基準価格を設定して作柄に応じて一定の範囲内で取引を行うなどの取組を推進できないか。（生産者団体等）
- コロナ禍で解消された複数年契約を再構築する必要があると考えているが、量と質と価格の具体的な提示を踏まえた取決めでないと事前契約の意味がない。一方、価格が乱高下している現在の状況では、事前契約を進めていくことも困難。（需要者団体等）

その他

- 原料米の価格がこれ以上高くないように、今後の価格動向を注視いただき、相場が大きく上昇する場合には、補助制度を手厚くするなど、酒造メーカー、生産者双方にメリットが生じるような対応をお願いしたい。（需要者団体等）
- 輸出する日本酒には加工用米も使用しているので、新市場開拓用米への支援については、酒造好適米だけでなく、加工用米にも支援をお願いしたい。（需要者団体等、生産者団体等）
- 輸出用日本酒に使用する酒造好適米に対する支援については、国税庁に報告している原料米の使用量を活用するなど、輸出実績に対して支援する方法の検討もお願いしたい。（需要者団体等）
- 種子の生産について、高温障害の影響で発芽率の確保が非常に難しくなっている。種子生産者の高齢化はさらに進んでいるため、種子の安定供給についても、本情報交換会の議題としていただきたい。（生産者団体等）
- 令和5年産の特定米穀（ふるい下米）の発生量の減少により、国産加工原材料用米穀の供給量が減少し、焼酎メーカーにおける原料確保が困難な状況となっている。（需要者団体等）

（以上）